

きょうの紙面	2面	テレプラ
	3面	エンタメ
	4面	釣り
	5面	テレビ番組
	6面	商況、市況
	7面	コラム、情報

発行所 **西日本新聞社**
〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号
092(711)5555(代)

お客さまセンター
092(711)5331

平日10~18時
土曜10~14時(日・祝日休み)

購読・配達のご案内(7~20時)
0120-44-0120

西日本新聞

夕刊

2018年(平成30年)11月6日(火曜日)

街のCD店心つかむ1枚

売れぬ時代なんの

福岡における「おばあちゃん
の原宿」と誰が呼んだか、多くの
シニアらが買い物を楽しむ福岡
岡市・天神の新天町商店街。そ
の一角に、創業70年を迎えたC
Dショップ「ミュージックプラ
ザ・インドウ」がある。音楽を
インターネット配信で楽しむ人
が増え、大手チェーンですら縮
小する激動の時代を生き抜いて
きた、その秘策を探った。



オリジナルCDを次々に制作する印藤泉さん。店頭の特設コーナーを作り、商店街の買い物客にもアピールしている

創業70年 新天町商店街の「インドウ」

自社で制作、冊子もこだわり

インドウは終戦から3年後
の1948年に、「戦争です
さんだ人々の心を音楽で満た
そう」と誕生した。クラシッ
クレコードの販売に始まり、
2代目の印藤泉社長(68)の時
代にはカセットテープ、CD
へと置き換わってきた。

さらに今、音楽業界にはネ
ット配信の波が押し寄せてい
る。一般社団法人日本レコー
ド協会の調査では、CD生産
額は98年の5879億円をピ
ークに、昨年はその3割を切
る1707億円まで落ち込ん
だ。総生産額の2割が配信で
「CDが売れなくなった」と
言われるようになって久し
い。

しかし、インドウの隠れた
看板商品は今なおCD。しか
も個人店としてはかなり珍し
い自社制作だ。

昨年、昭和の大スター石
原裕次郎の名曲集が好評だっ
た。印藤さんは裕次郎記念館

が、このこだわりが人の所有
欲をくすぐる。「インドウのC
Dなら間違いない」とリピー
ターになってくれるんです」
他店に共同制作を呼び掛け
ることで、コストを抑えつつ
販売網を広げるなどの工夫も
重ねてきた。

印藤さんが自社制作を始め
たのは77年。映画音楽のカセ
ットテープを、当時は異例だ
った通信販売で売り出した。
日用品などを扱うカタログに
掲載すると、全国から注文が
舞い込んだ。音楽業界の先を
見据え、「店に来る客だけを
当てにした『待ち』の姿勢を
脱却せいかん」という危機
感からの挑戦だった。

CD時代に入ると「タワー
レコード」や「HMV」など
の大手が全国に販売網を広げ
る。インドウも負けじと昭和
の流行歌や童謡の名曲集を作
った。

印藤さんには「古い音源を
守らなければ」という、もう
一つの危機感があった。レコ
ード会社の社員が世代交代
し、忘れ去られていく歌を、
次世代につなぎたいという思
いがあった。「詞がしゃれとん
しゃー(しゃれている)歌が
たくさんある。行間に情景が
見えるような、日本語の奥深
さってのかな」

これまでに制作した自社C
Dは計500種類を超える。
今ではレコード会社で経験を
積んだ長男・毅さん(38)が右
腕に。「唯一の存在」として
客の心をつかみ続ける街のC
Dショップを目指す。

印藤さんは「業界の一端を
担う小売店として、音楽文化
を継承していく使命感を持っ
てやっていきます」と力強く
語った。

(山田育代)



博多祇園山笠に欠かせない「祝い目出度」、廃
盤になった音源を掘り起こした村田英雄の「博
多ばやし」など、福岡の民謡を取めた2枚組C
D「博多のよかうた よかこち」。漫画家の
長谷川法世さんがイラストを担当。博多っ子
の心をはっきりつかみ、2008年の発売以来売れ続
けている